

雨にも負けず、「岩手大学のチカラ」が 最大限発揮されるために

—岩手大学が求める職員像—

本学の卒業生でもある、詩人 宮沢賢治の有名な詩、「雨二モマケズ」。
この詩で語られている人物のような、謙虚で真摯な心を持ちながらも、粘り強く懐の深い大学職員に私たちはなりたい。そんな思いを込めて、岩手大学職員の「チームカラー」と「行動指針」をそれぞれ決めました。

岩手大学職員の「チームカラー」と「行動指針」をそれぞれ決めました。

岩手大学職員のチームカラー

私たちは、より良い「ひと」、「もの」、「地域」づくりに「岩手大学のチカラ」が最大限発揮されるために、多様な「舞台」を創造するチームです。

その実現のために、チームとして次のことを大切にします。

ホスピタリティ (Hospitality)

岩手の人情豊かな環境を背景とした「ホスピタリティ」を大切にします。まずは相手の気持ちを考えた行動を意識し、笑顔を絶やさず、真摯に仕事に取り組み、地域や世界から愛される大学づくりに貢献するチームであり続けます。

タフネス(Toughness)

岩手の厳しくも壮大な自然の中で生きる人々が持つ「タフさ」を大切にします。学内外の様々な諸課題の解決に向けて、チームワークを駆使して粘り強くしなやかに、考え抜き、努力し、積極的にアクションを起こすチームであり続けます。

ハピネス(Happiness)

宮沢賢治の心象世界「イーハトーブ」(理想郷)からイメージする「幸福感」を大切にします。どんなときもお互いを思いやる心をもって行動し、そこから得られる様々な達成感や幸福感を自己実現にもつなげていく…そのような「幸福の循環(ハピネスサイクル)」の存在するチームであり続けます。

岩手大学職員の行動指針

私たちは、岩手大学の使命・理念の達成に向けて、
主体的に「考動」し続けるために、
次のことを行動指針とします。

つかむ

世の中の動きや時代の変化、地域や社会のニーズ、岩手大学の強み・特色など、さまざまなことに対して広く敏感にアンテナを張り、必要な情報をキャッチします。

世の中の動きや時代の変化、科学技術の進展などにより、大学に対する社会や地域のニーズも日々変化しています。私たちは、めまぐるしく変動する社会の中で、学生や教員、地域や社会に最大限貢献し続けるために、まずは一人一人が岩手大学の強み・特色、岩手という地域性をしっかり理解します。そして、地域や社会に広くアンテナを張り、必要な情報を敏感にキャッチします。

応える

教育機関で働く意識を常に持ち、真摯で誠実な態度と柔軟な発想で、学内外からの信頼・期待に応えるとともに、学生の模範として、学生の社会的成長を後押しします。

教育機関である大学には、常にステークホルダーの目が注がれています。大学職員は良識のある行動をとることが必須です。私たちは、真摯で誠実な態度と、前例にとられない柔軟な発想で、学生や教職員、地域や世界など誰からも信頼され、期待される職員をめざします。また、大学職員は学生にとって最も身近な社会人であるという自覚を持ち、学生の模範となって行動するとともに、学生の社会的な成長を後押しします。

活かす

コンパクトな岩手大学ならではの特長と、個々がもつ多様な特性を活かし、スピード感と横断的な思考をもって、チームとしての最適解を導きます。

総合大学でありながら、ワンキャンパスでコンパクトな岩手大学には、「機動力」や「チーム力」を大きく発揮することのできる組織的な特長が備わっています。私たちは、それらの特長を存分に活かして、スピード感を意識しながら、横断的思考を持って他者と積極的に協働します。自身の役割を認識しつつ、それぞれが持つ多様な個性、知識、経験などを存分に活かすことで、チームとしてより良い業務成果を生み出します。

高める

岩手大学が果たすべき社会的使命を意識し、「岩手大学の子カラ」をさらに高めるために、自らを高め、互いを高め合いながら、大学や地域社会の持続的成長のためのエンジンとなります。

「知識基盤社会」である現代社会において、岩手大学をはじめとする高等教育機関が果たすべき役割も日々高度化しています。私たちは、岩手大学の立ち位置や、そうした役割を常に意識しながら、長期的視点をもって業務を遂行するとともに、必要に応じた改善を図り、岩手大学の可能性を高めていきます。また、そこで働く自分自身の可能性を拡げるため、生涯に渡って学び続けるとともに、職員同士が互いに高め合いながらその成果を還元し続けることで、大学や地域社会の持続的な成長のために貢献します。

わくわくする

多くの価値観とふれあい、変化を前向きにとらえ、そこから感じる「わくわくの気持ち」を大切にしながら、輝く未来に向けてチャレンジします。

めまぐるしく変動する社会の中で日々成長していくためには、変化を恐れず、むしろその変化をチャンスと捉え、前へ踏み出す力が求められます。私たちは、自身を取り巻く多様な人、価値観、環境など、さまざまなことに興味・関心・好奇心を持ち、そこで感じた「驚き」「喜び」「楽しみ」など、わくわくする気持ちを大切にします。その気持ちを持って、変化を前向きにとらえ、成長を楽しみ、その成長を共有・還元しながらさまざまなことにチャレンジします。